

## V 環境整備

ここでは、ベビーキープ等の設置及び授乳室（柏原キャンパス・天王寺キャンパス）について、授乳室の利用状況を含めて示し、今後の課題を検討している（V-1）。また、2024年度に設置したオールジェンダートイレについて説明し（V-2）、2019年度に導入したクロスアポイントメント制度の趣旨及び現在の状況も説明している（V-3）。



## V 環境整備

### V-1 ベビーキープ等の設置及び授乳室の整備

柏原キャンパスでは、2015年度の施設改修工事に合わせ、A棟エレベーター側（北側）トイレ（各階男女）にベビーキープ（1階女子トイレには加えてベビーシート）、B3棟3階多目的トイレにベビーシート及びベビーキープ、C1棟1階多目的トイレにベビーシートを設置した。その他、2015年度のこれらの設備の設置以前から、附属図書館のトイレ（1階男女）にもベビーシート及びベビーキープが設置されている。

新たに、2024年度4月に開設した天王寺キャンパスのみらい教育共創館1階のオールジェンダートイレ内にもベビーシート及びベビーキープを設置した。

また、次世代育成支援対策推進法に基づき、職員の仕事と子育ての両立支援、乳幼児を育てる大学院生・学生・留学生等に対する学生支援、そして公開講座などで訪れる様々な人の育児に対する支援として、柏原キャンパスには附属図書館2階に、天王寺キャンパスには中央館2階に授乳室を設置している。また、2024年度4月に開設した天王寺キャンパスのみらい教育共創館1階のオールジェンダートイレ内にも授乳室を新たに設置した。学生の利用を想定し安全面での配慮を図り、加えて、インターネット環境やエアコン等の設備も整えられている。その利用に当たっては、安全面にも配慮し、柏原キャンパスでは、附属図書館開館時間内に1階サービスカウンターへ、天王寺キャンパス中央館では、天王寺キャンパス事務室開室時間内に事務室へ申し出る事により、利用できることとしている。天王寺キャンパスのみらい教育共創館オールジェンダートイレ内の授乳室は、オールジェンダートイレのコンセプトが「多様性を認める社会の実現を目指し、誰もが安心して快適に利用できるトイレ」であることから、申出不要で利用可能であり、ドアの内側から鍵をかけられるようになっている。特に、天王寺キャンパスでは柏原キャンパスより広いスペースの授乳室が確保されている。

利用状況は、表V-1-①のとおりであった。

表V-1-① 授乳室の利用状況

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
柏原キャンパス	5回	17回	6回	5回	2回	0回
天王寺キャンパス (中央館)	1回	0回	4回	5回	0回	1回 (西館)

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
柏原キャンパス	0回	1回	2回	1回
天王寺キャンパス (中央館)	0回	0回	0回	3回

2020年度と2021年度について、相対的に少ないのはコロナ禍の影響が大きいと考えられる。また、天王寺キャンパスにおいては、2021年9月から2023年8月までは、コロナ対応で、立地の関係から、中央館2階の授乳室を大学登校後に体調不良になった学生への抗原検査会場として使用していたが、西館の休養室を代替の授乳室として確保して対応していた。

また、2024年4月以降は、天王寺キャンパスのみらい教育共創館1階のオールジェンダートイレ内にも授乳室を設置し、こちらは申出不要で利用可能なため、中央館授乳室の利用状況が少なくなっていると考えられる。



ベビーキープ



授乳室 (柏原キャンパス)



授乳室 (天王寺キャンパス中央館)



授乳室 (天王寺キャンパスみらい教育共創館)

## V-2 オールジェンダートイレの設置

2024年4月に開設した「日本の教育課題に対応し、新たな未来教育を創造する産官学連携による共創拠点」を形成することをコンセプトとしたみらい教育共創館の設計時に、ダイバーシティの観点を反映し、その象徴的な存在としてその波及効果も含め大きな役割を持つ「オールジェンダートイレ」の設置を求める要望書をダイバーシティ推進室から提出し、設置された。

本学のオールジェンダートイレのコンセプトは、「多様性を認める社会の実現を目指し、誰もが安心して快適に利用できるトイレ」とし、男女共用トイレを必要とする幅広い方々に対してダイバーシティの観点から共創できる設備を実現した。

利用者が安心して使用できるように出入り口を2箇所設け、行き止まりのない「回遊型」のレイアウトを採用することで利用者同士のすれ違いを解消しており、トイレ正面

に壁を設け、出入りが直接見えないように配慮している。また、すべての利用者が気兼ねなく利用できるよう、個室内で用足しから手洗いまで行える個室完結型のデザインを採用し、さらに扉上部を垂れ壁にし、盗撮やプライバシーに配慮している。

本トイレ内には車いす使用者やオストメイトに配慮したバリアフリートイレや、教職員の仕事と子育ての両立支援及び乳幼児を育てる方に対する支援を考慮し、多様な利用者を想定した授乳室も設置している（V-1 参照）。

個室内の手洗い設備がコンパクトなため、しっかり手洗いできるよう、また、手洗いのみの利用ができるように手洗いコーナーも設置している。また、トイレ利用時に身繕いするニーズが高いことから、スタイリング専用コーナー及び全身鏡も設置している。

案内板・サインは誰にでもわかりやすいようピクトグラムを中心に構成しており、色彩は性別を問わないカラーを基調とし、視認性などを考慮しつつ空間や雰囲気馴染むように設計した。

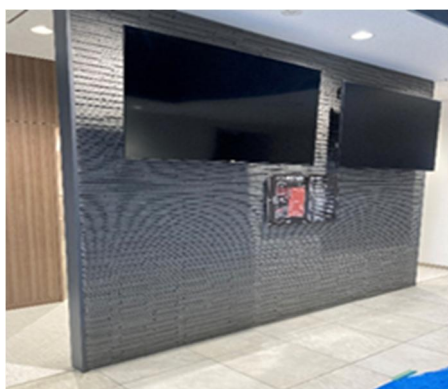
みらい教育共創館の特性も活かし、オールジェンダートイレに教育的効果も含めた波及効果も期待している。

TOTO 株式会社の HP の COM-ET サイト（以下 URL）より、本学オールジェンダートイレの事例詳細シートが確認できる。

<https://www.com-et.com/jp>

<事例詳細シート確認手順>

トップページから、【事例】選択 → 【+条件を追加】 → 【フリーワード】に「大阪教育大学」を入力後 【絞り込む】にて確認



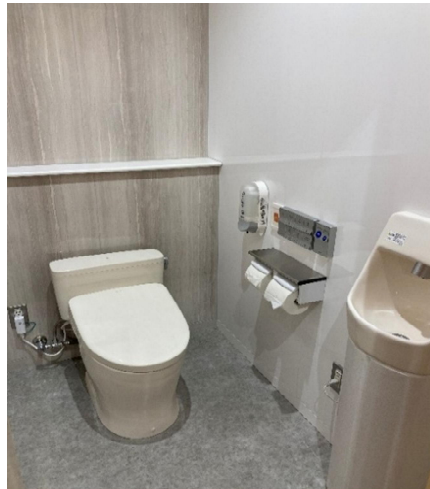
出入口（2ヶ所）



案内板



個室トイレ



個室（個室完結型）



バリアフリートイレ入口（案内板等）



バリアフリートイレ個室



授乳室入口（中はV-1の写真参照）



ピクトグラム

### V-3 クロスアポイントメント制度の導入

クロスアポイントメント制度とは、研究者等が大学、公的研究機関、企業の中で、2つ以上の機関に雇用されつつ、一定のエフォート管理の下で、それぞれの機関における役割に応じて研究・開発及び教育に従事することを可能にする制度である。

それぞれの機関と雇用契約関係を結び、「常勤職員」としての身分を有すること等から、以下のメリットが挙げられる。

- ①それぞれの機関のルールや機関間の協定等に基づき施設等を自由に扱うことができる
- ②研究活動ネットワークの拡大につながる
- ③両機関が高い知見をリーズナブルな人件費で獲得できる
- ④本籍が移籍しないことから、それぞれの機関と本人の了承が得やすい

これを踏まえ、本学では、「国立大学法人大阪教育大学クロスアポイントメント制度に関する規程」を制定し、2019年10月23日より制度の運用を開始した。現在、3名が本学理数情報系に派遣されており、詳細は以下のとおりである（派遣元が当初より変更となっている方もいる）。

特任准教授 1名（男性） 2020年度～派遣（株式会社エボルブ）

特任教授 1名（女性） 2022年度～派遣（特定非営利活動法人コンソーシアム TIES）

特任教授 1名（男性） 2025年度～派遣（合同会社エムエム IMES）

今後は、他機関研究者を本学に受け入れるのみならず、本学の教員を他機関に派遣する等、企業との共創を主眼とした継続的・多面的な連携をさらに推進することで、女性研究者のみならずダイバーシティの観点を意識し、女性教員、外国籍の教員等の区別なく、年齢、職位などに囚われない能力主義の登用を行い、その活躍に繋げるとともに、本学の機能を強化したい。

本学におけるクロスアポイントメント制度の基本的な考え方

- ①本学の大学教員（特任教員含む）及び他機関（大学、公的研究機関、企業）の職員を対象とし、「在籍型出向」形態によるクロスアポイントメント制度とする。
- ②給与は出向元機関（本学教員の場合は本学、他機関職員の場合は他機関）から一括で支給し、出向先機関（本学教員の場合は他機関、他機関職員の場合は本学）はエフォート率に基づき算出した額を負担する。
- ③社会保険、年金、雇用保険等は出向元機関において継続して加入。事業主負担額は出向元機関が一括して支払い、出向先機関はエフォート率に基づき算出した額を負担する。
- ④本学教員の退職手当は、クロスアポイントメント期間も在職期間に通算する。他機関職員の退職金は他機関の定めによる。
- ⑤具体の条件等は、個別に締結する協定書において定める。